

# 平成24年度入学生対象

別記様式1

平成24年2月28日

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔 教育学部第二類（科学文化教育系）社会系コース 〕

プログラムの名称（和文）	中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラム
（英文）	Secondary educational sciences (social studies/geography-history/civics) program

### 1. プログラムの紹介と概要

中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラムは、中学校社会科教員、高等学校地理歴史科教員、公民科教員（これらを総称して、中等社会系教員と呼ぶこととする。）を養成することを主な目的とする。

中等教員養成をめざす中等教育科学プログラムの1つに位置付けられる本プログラムは、中学校、高等学校の社会系教育を実施するうえにおいて必要な、地理学、歴史学、政治学、経済学、法学、哲学、倫理学などの人文・社会科学の各分野、およびそれらの教育・学習に関する基本的な知識、能力、技能および態度を体系的に修得し、生徒の発達段階、学習段階に応じた社会系授業を展開したり、興味関心を引き出したり、新たな発展的な学習を組織したりできるような実践的な教育力を育成することを目標にしている。

本プログラムは第一義的には、中等社会系教員養成プログラムであるが、社会系教育やそれに関連した大学院に進学し、さらに、研究者として、また、企業や公共団体などの諸団体において教育専門職として活躍できる応用発展的な知識、能力や技能の育成にも十分に配慮している。

### 2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

プログラム開始（選択）時期は、1年次である。

### 3. プログラムの到達目標と成果

#### （1）プログラムの到達目標

本プログラムは、中等社会系教員として必要とされる、次のような目標の達成をめざす。

- 1) 社会科、地理歴史科、公民科という教科の教育的思考を育成し、教育研究能力を開発する
- 2) 社会系教育内容に関連した基本的な認識を形成し、その研究能力を開発する
- 3) 優れた社会系教育実践力を育成する

本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基盤づくりを担い、教育学、心理学を含む人文科学、社会科学に関する基本的な知識・理解を修得するとともに、外国語能力を向上させ、現代の社会や教育現場の要請に応える総合的な能力や資質を養う。

#### （2）プログラムによる学習の成果（具体的に身につく知識・技能・態度）

##### ○知識・理解

- 1) 中等社会系教育の理論と方法に関する基本的な知識
- 2) 中等社会系地理領域の教育内容に関する基本的な知識

3) 中等社会系歴史領域の教育内容に関する基本的な知識

4) 中等社会系公民領域の教育内容に関する基本的な知識

○知的能力・技能

1) 中等社会系教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。

2) 中等社会系教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。

3) 社会系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる。

4) 社会系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。

5) 社会系内容領域に関連した研究課題を文献や歴史資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。

○実践的能力・技能

1) 中等社会系カリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。

2) 中等社会系教育内容や教材を分析し、開発することができる。

3) 中等社会系授業を分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる。

4) 中等教育および社会系教育に関わる研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。

○総合的能力・技能

1) 個人、あるいは、グループにおいて、研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる（研究力）。

2) 調査や教育実施、その発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領よく整理し、プレゼンテーションすることができる（コミュニケーション・プレゼンテーション力）。

3) コンピュータなど IT を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる（IT 活用力）。

4) 多くの人々と協同して中等教育課題に取り組み、グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている（社会性・協同性）。

#### 4. 教育内容・構造と実施体制

##### (1) 学位の概要（学位の種類、必要な単位数）

本プログラムが提供する学位は、学士（教育学）である。その取得には、本プログラムにて実施される授業科目を選択履修することによって修得する128単位を条件としている。教養教育32単位、専門基礎科目16単位、専門発展科目40単位、自由選択科目32単位、卒業研究8単位である。

##### (2) 得られる資格等

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得すると、中学校教諭一種免許（社会）と高等学校教諭一種免許（地理歴史）あるいは（公民）を取得できる。また、特定プログラムを追加して修得すると、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。

##### (3) プログラムの構造

本プログラムでは、一年次から、専門基礎に関する授業科目、専門に関する授業科目がはじまる。

教養科目は専門教育の基盤づくりを担い、教養ゼミ、平和科目、パッケージ別科目、総合科目、英語を中心にした外国語科目、情報科目、日本国憲法や人文・社会科学の領域科目、健康スポーツ科目からなり、専門教育の科目は社会系プログラムの基礎科目、発展科目、中等教職科目などの選択科目からなっている。

専門科目は社会系教育関係科目では、社会科教育、地理教育、歴史教育、公民教育の教科教育科目と、地理内容、日本史内容、世界史内容、法内容、政治内容、経済内容、倫理内容などの教科内容科目のほか、選択科目からなっている。

各科目領域は基礎入門科目から、理論研究科目、実習演習科目へと配しており、各領域を順次履修することで、各知識・理解、能力・技能の水準を上げ、中等社会系教員として必要な能力などを取得できるように構造化してある。

各年次の履修基準は、一年次では教養科目の14単位以上、二年次では教養科目累計28単位以上、専門科目累計28単位以上、三年次では教養科目累計28単位以上、専門科目累計56単位以上を各々取得していることである。※体系的に理解できる図を別紙2として添付。

#### (4) 卒業論文（卒業研究）（位置付け、配属方法・時期等）

##### ○目的

卒業論文は、本プログラムがめざす中等社会系教員養成という目標の最終到達点である。

それまでに身に付けた、中等社会系教員として必要な能力、技能、態度の基礎と発展を活用し、実際の教育・研究場面に使用し、自らの達成水準を見極め、さらに発展・向上させ、深めるように促すことを目的にする。

##### ○概要

社会系教育領域である社会系教科教育、地理内容領域、歴史（日本史・世界史）内容領域、法内容領域、経済内容領域、倫理内容領域から1研究領域を選択し、卒業論文指導教員の指導の下、各自が選択する研究テーマに即して学修を進め、4年次10月の所定期日に研究テーマを、1月末には卒業論文を提出する。

##### ○配属の時期と方法

3年次前期末に卒業論文指導教員を決め（ゼミ分け）、主要な研究領域を選択する。

3年次後期以降、論文執筆に必要な内容を含む授業科目のほか、主要な研究領域の授業科目を重点的に選択し、4年次前期には、各領域の卒業研究演習において社会系研究領域の指導を受け、本格的に卒業論文の作成を行う。

#### 5. 授業科目及び授業内容

※履修表を別紙3として添付。参照。

#### 6. 教育・学習

##### (1) 教育方法・学習方法

本プログラムで到達をめざす知識・理解は、各授業科目の試験、課題やレポートなどにて、知的能力・技能、実践的能力・技能は、理論や研究、実習・演習に関する科目を中心に、課題やレポートなどにて、総合的能力・技能は、演習・実習に関する科目や卒業論文作成を中心に、研究内容や実行内容などにて、各項目の到達レベルを評価し確認する。

(2) 学習支援体制 (簡潔に箇条書きにしてください)

○教員による支援

- 1) チューター制度：1年次から3年次前期までは、学年チューターが指導する。
- 2) 卒業論文：3年次後期から4年次までは、卒業論文指導教員が指導する。
- 3) プログラム教員会：主として社会認識教育学講座の教員が当たり、学生の学修支援態勢を作る。
- 4) 講座支援室：社会認識教育学講座が本プログラムにおける教育の支援に当たる。

(連絡窓口は、社会認識教育学講座事務補佐員(教育学部A棟4階409号社会認識教育学図書室あるいはC棟5階521号地歴・公民系図書室に常駐)である。)

- 5) 講座図書室：社会認識教育学図書室の図書、資(史)料、IT機器を活用し、学修を支援する。

7. 評価(試験・成績評価)

(1) 到達度チェックの仕組み

○個人成績

- 1) 授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可及び不可で判定する。
- 2) 授業科目ごとの成績は、所定の計算方法により、GPAとして累積する。
- 3) 学年ごとにGPAを算出し、個人の基本成績レベルが確認できるようにする。
- 4) 各学年で、評価項目ごとに到達度を確定し、個々の達成水準を明示する。

○成績評価

- 1) 1年次、2年次、3年次には、めさすとしての取得単位数と成績達成水準により、学習支援の一環として、次学年への進級が勧告される。
- 2) 未達成者には、問題点と課題が提示される。本来の水準に達したときに、次学年に進級できる。
- 3) 4年次では、これまでの成績、卒業要件単位数、評価項目ごとの到達度に加味し、卒業論文の成績により、本プログラムでの総合的な成績評価が提示される。

(2) 成績が示す意味

成績は、各授業科目の成績とともに、到達評価項目ごとの成績によって各自に提示される。各学生は個別授業科目の評価とともに、社会系教員養成に関して、知識・理解、知的能力・技能、実践的能力・技能、総合的能力・技能の到達レベルを示され、各自でどのレベルにまで達しているのかを理解し、次学年の課題などを各自で設定する際に活用する。※別紙4(到達目標評価項目と評価基準の表)参照。

8. プログラムの責任体制と評価

(1) PDCA責任体制(計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action))

本プログラムは、主として教育学部・教育学研究科の社会認識教育学講座のスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者(社会認識教育学講座の主任)にある。

計画・実施・評価検討・対処改善は、本プログラム教員会が行う。

なお、プログラム外部からの評価検討・対処改善は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告がなされる。

(2) プログラムの評価

○プログラム評価の観点

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。  
教育的効果では、プログラムの実施自体における学生の学習成果を判定する。  
社会的効果では、プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

#### ○評価の実施方法

本プログラムは、上記の評価の観点にしたがい、原則として学生が入学して4年を経た年次にプログラム自体の成果を評価する。

第1の教育的効果に関しては、本プログラムを修得した学生の到達率（卒業要件の充足と中等社会系教員資格の充足）による評価、および、実施した教員グループによる総合的な評価によって行われる。単位充足率とともに、教員の総合評価に基づいて、本プログラムの到達水準にまで各学生が達したかどうか、学生全体でどのような割合で達したのかを調べ、75%以上の達成率があるかどうかを点検する。第2の社会的効果に関しては、学生の教員採用試験選考の合格率による評価、採用後の社会系教員としての成長度による評価として実施される。本プログラムを修得した学生が教員をめざした場合、いつ、どの時点で正教員になったのか、また、教育現場においてどのような教員として学校および教育委員会から評価されているのか、を数年おきに調べ、教員としての成長度を証拠に基づき総合的に評価する。

#### ○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果は、プログラム担当委員会において、プログラム内容の見直しと改善を行うとともに、学生指導や各授業科目の効果を検討したうえで、検討結果を将来および下級学年のプログラム運営と実施に反映させる。

※担当教員リストは、別紙5を参照。

## プログラムの教育・学習方法

## ○ 知識・理解

<p><b>身につく知識・技能・態度等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中等社会系教育の理論と方法に関する基本的な知識</li> <li>2) 中等社会系地理領域の教育内容に関する基本的な知識</li> <li>3) 中等社会系歴史領域の教育内容に関する基本的な知識</li> <li>4) 中等社会系公民領域の教育内容に関する基本的な知識</li> </ol>	<p><b>教育・学習の方法</b></p> <p>社会系教育における基本的な知識・理解 1)～4) は、社会系プログラム基礎科目と発展科目における講義、実習、演習など、また、各授業科目が課す自己学修、課題、レポート作成などを通じて、獲得できるようにする。</p> <p><b>評価</b></p> <p>知識・理解 1)～4) は、各授業科目にて行う中間試験や期末試験、その他の課題やレポートを通して評価する。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ○ 知的能力・技能

<p><b>身につく知識・技能・態度等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中等社会系教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。</li> <li>2) 中等社会系教育に関連した教育課題を文献や資料に基づいて調査し、吟味・検討することができる。</li> <li>3) 社会系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ、読解することができる。</li> <li>4) 社会系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。</li> <li>5) 社会系内容領域に関連した研究課題を文献や歴史資料に基づいて調査し、吟味・検討することができる。</li> </ol>	<p><b>教育・学習の方法</b></p> <p>知的能力・技能 1)～5) は、プログラムの各授業科目における講義、実習、演習を通じて、基礎的基本的なものを獲得するとともに、共同して行うグループ討議や研究、また、課題遂行、フィールドワークなどを通じて実用的実地的なものを学習し、卒業論文の作成を通してより高度な内容に発展させる。</p> <p><b>評価</b></p> <p>知的能力・技能 1)～5) は、実習、演習そのほかのフィールドワーク、資料研究などにおけるグループ学修、討議、研究、課題やレポートを通して評価する。</p> <p>卒業論文は、これらの能力・技能を学生自身が確実に修得しているのかを確認し、より高度な能力・技能へ発展させる機会にする。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ○ 実践的能力・技能

<p><b>身につく知識・技能・態度等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中等社会系カリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。</li> <li>2) 中等社会系教育内容や教材を分析し、開発することができる。</li> <li>3) 中等社会系授業を分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる。</li> <li>4) 中等教育および社会系教育に関わる研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。</li> </ol>	<p><b>教育・学習の方法</b></p> <p>実践的能力・技能 1)～4) は、演習、実習、フィールドワークなどにおいて、カリキュラム作成、教材開発、指導案作成、小研究（レポート・課題研究）などの実際的な課題遂行作業を通して修得し、卒業論文作成において、より高度な内容に発展させるとともに、実際的に活用できるようにする。</p> <p><b>評価</b></p> <p>実践的能力・技能 1)～4) は、特定課題の遂行過程とその結果で評価する。卒業論文の作成過程とその結果において、学生自身がどのレベルまで到達したのかを確認できるようにする。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ○ 総合的能力・技能

<p><b>身につく知識・技能・態度等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 個人、あるいはグループにおいて、研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる（研究力）。</li> <li>2) 調査や教育実施、その発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領よく整理し、プレゼンテーションすることができる（コミュニケーション・プレゼンテーション力）。</li> <li>3) コンピュータなど IT を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる（IT 活用力）。</li> <li>4) 多くの人々と協同して中等教育課題に取り組み、グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている（社会性・協同性）。</li> </ol>	<p><b>教育・学習の方法</b></p> <p>総合的能力・技能 1)～4) は、プログラム全体を通じて発達させるものであるが、とくに教養的科目の教養ゼミ、情報活用演習、中等プログラムの総合演習などを通じて重点的に身に付けさせ、また、個別の演習、実習、フィールドワークなどを通じてより高度な内容に発展させて、最終的には卒業論文の作成過程で実際的に発揮できるようにする。</p> <p><b>評価</b></p> <p>総合的能力・技能 1)～4) は、プログラム全体において総合的に評価する。とりわけ、卒業論文の作成過程とその結果において、学生自身がどのレベルにまで到達したのかを確認できるようにする。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

主専攻プログラム モデル体系図

教育学部中等教育科学(社会・地理歴史・公民)プログラム

(専門教育における)学習の成果	教養教育到達目標	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	中等社会系教育の理論と方法に関する基本的な知識		社会認識教育学概論(◎)	社会科教育論(○)	地理歴史科教育論(○)		社会認識教育研究法(△)		
	中等社会系地理領域の教育内容に関する基本的な知識	領域科目(○)	地理学概説Ⅱ(○)	地理学概説Ⅰ(○)	世界地誌(△)	自然地理学研究(△)			
	中等社会系歴史領域の教育内容に関する基本的な知識	日本史概説Ⅰ(○)	戦争と平和に関する史的 연구(○)	日本史概説Ⅱ(○)	世界史概説Ⅱ(○)	中国社会史研究(△)			
	中等社会系公民領域の教育内容に関する基本的な知識	経済学概説(○)	法学概説(○)	現代倫理研究(△)	倫理学概説(○)	応用倫理学研究(△)	現代倫理学演習(△)		
知的能力・技能	中等社会系教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる		社会認識教育学概論(◎)	社会科教育論(○)	地理歴史科教育論(○)	社会系(地理歴史)カリキュラムデザイン論(△)	社会系(地理歴史)教育プランニング論(△)		
	中等社会系教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる	教養ゼミ(◎)		社会系(地理歴史)教育評価論(△)	社会認識教育史(△)		社会認識教育研究法(△)		
	社会系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる	日本史概説Ⅰ(○)	法律学概説(○)	日本史概説Ⅱ(○)	自然地理学実習(△)	人文地理学実習(△)	社会認識教育研究法(△)		
	社会系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる	教養ゼミ(◎)	戦争と平和に関する史的 연구(○)			文献資料解析演習Ⅰ(△)	地域研究法Ⅰ(△)		
	社会系内容領域に関連した研究課題を文献や歴史資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる				現代倫理研究(△)	倫理学概説(○)	応用倫理学研究(△)	現代倫理学演習(△)	

実践的能力・技能	中等社会系カリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる		社会系(公民)カリキュラムデザイン論(Δ)		社会系(地理歴史)カリキュラムデザイン論(Δ)									
	中等社会系教育内容や教材を分析し、開発することができる		社会系(地理歴史)教科指導法(Δ)	日本文化史研究(Δ)	社会系(公民)教科指導法(Δ)	社会系(公民)教育方法・評価演習(Δ)								
	中等社会系授業を分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる		社会系(地理歴史)教育評価論(Δ)	社会系(公民)教育プランニング論(Δ)	社会系(公民)教科指導法(Δ)	社会系(公民)教育方法・評価演習(Δ)	社会系(地理歴史)教育プランニング論(Δ)							
	中等教育および社会系教育に関する研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる		社会系(地理歴史)教科指導法(Δ)	社会系(地理歴史)教育方法・評価演習(Δ)			地理教育プランニング実習(Δ)	歴史教育プランニング実習(Δ)	公民教育プランニング実習(Δ)					
総合的能力・技能	個人、あるいは、グループにおいて、研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる(研究力)				日本近代化論研究(Δ)	社会認識教育研究法(Δ)	社会認識教育研究演習(○)	地理内容研究演習(○)	日本史内容研究演習(○)	世界史内容研究演習(○)	倫理内容研究演習(○)	法内容研究演習(○)	経済内容研究演習(○)	
	調査や教育実施、その発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領よく整理し、プレゼンテーションすることができる(コミュニケーション・プレゼンテーション力)	論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。	教養ゼミ(◎)					地理教育プランニング実習(Δ)	社会認識教育研究演習(○)	卒業論文(◎)				
	コンピュータなどITを用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる(IT活用)	情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や受発信を適切に行うことができる。	情報科目(○)		自然地理学実習(Δ)	人文地理学実習(Δ)			社会認識教育研究演習(○)	卒業論文(◎)				
	多くの人々と共同して中等教育課題に取り組み、グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている(社会性・協同性)								社会認識教育研究演習(○)	卒業論文(◎)				
									地理内容研究演習(○)					
									日本史内容研究演習(○)					
									世界史内容研究演習(○)					
									倫理内容研究演習(○)					
									法内容研究演習(○)					
									経済内容研究演習(○)					

教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

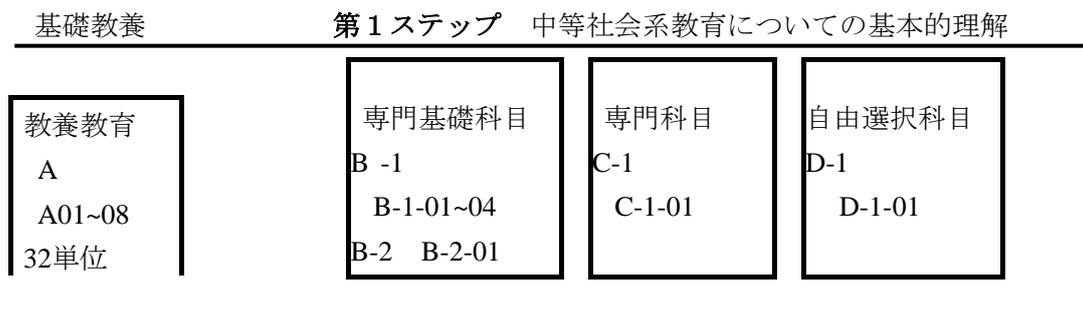
(◎)必修科目

(○)選択必修科目

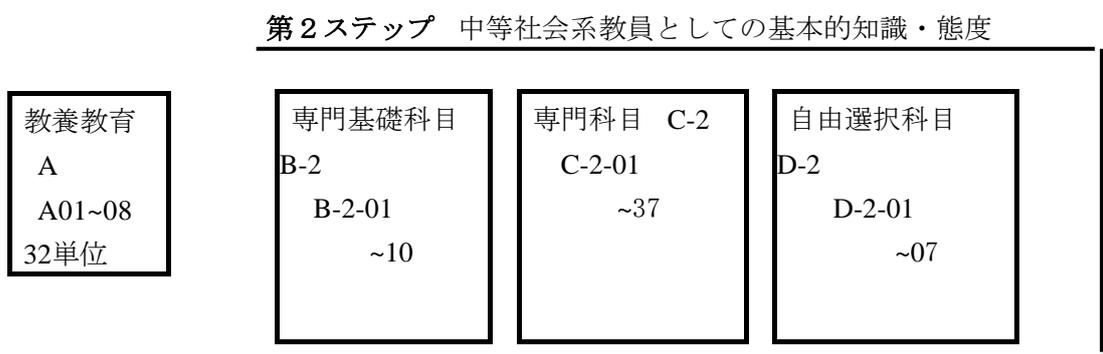
(Δ)選択科目

【プログラム構造図】

別紙2



【履修基準（進級基準）：教養科目を14単位以上取得していること】



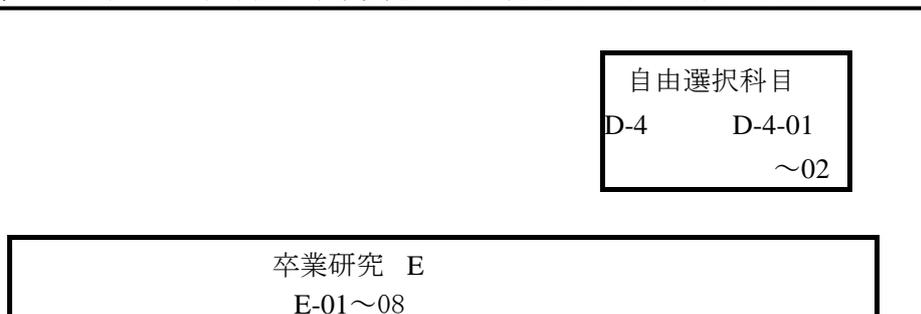
【履修基準（進級基準）：教養科目を累計28単位以上取得していること  
専門科目を累計28単位以上取得していること】

第3ステップ 中等社会系教員としての実践的知識・態度・技能



【履修基準（進級基準）：教養科目を累計28単位以上取得していること  
専門科目を累計56単位以上取得していること】

第4ステップ 中等社会系教員としての総合的知識・態度・技能



【履修基準（卒業基準）：卒業単位128単位を、教養科目32単位以上、  
専門科目96単位以上、取得していること】

---

卒 業

科目一覧表

【基礎教養】

教養科目A

01教養ゼミ

02コミュニケーションⅠ・Ⅱ

コミュニケーションⅢ

03初修外国語

04情報科目

05「パッケージ別科目」の中の決定された1パッケージから3科目

06総合科目から1科目

07領域科目

日本国憲法，人文・社会科学系科目

08健康スポーツ科目

【第1ステップ（1・2セメ） 中等社会系教育についての基本的理解】

専門基礎科目B-1

01 地理学概説Ⅱ

02 日本史概説Ⅰ

03 法律学概説

04 経済学概説

専門基礎B-2

01社会認識教育学概論

専門科目C-1

01 戦争と平和に関する史的研究

自由選択科目 D-1

01 中・高等学校教育実習入門

【第2ステップ（3・4セメ）中等社会系教員としての基本的知識・態度】

専門基礎B-2

01 科学文化教育論

02 社会科教育論

03 地理歴史科教育論

12.02.28  
平成24年度入学生用

- 04 公民科教育論
- 05 地理学概説 I
- 06 日本史概説 II
- 07 世界史概説 I
- 08 世界史概説 II
- 09 倫理学概説
- 10 政治学原論

専門科目C-2

- 01 社会認識教育史
- 02 社会系（地理歴史）カリキュラムデザイン論
- 03 社会系（公民）教科指導法
- 04 社会系（地理歴史）教育評価論
- 05 社会系（公民）教育方法・評価演習
- 06 社会系（地理歴史）教育プランニング論
- 07 世界地誌
- 08 日本環境地誌
- 09 ヨーロッパ環境地誌
- 10 日本社会史研究
- 11 日本文化史研究
- 12 日本中世研究A
- 13 日本近世研究A
- 14 考古学概説
- 15 社寺建築学研究
- 16 文字資料解析学A
- 17 文献資料解析演習 II
- 18 中国史研究
- 19 アジア海峡システム研究A(東洋史)
- 20 東アジア地域システム研究A
- 21 異文化交流史研究（西洋史）
- 22 ヨーロッパ社会経済史
- 23 ヨーロッパ海域システム研究
- 24 哲学概論 I
- 25 哲学概論 II
- 26 現代倫理研究
- 27 仏教学概説
- 28 国際法 1
- 29 国際法 2
- 30 現代司法論
- 31 社会学 1

12.02.28  
平成24年度入学生用

- 32 社会学 2
- 33 社会調査論
- 34 経済学各論 I
- 35 経済学各論 II
- 36 国際経済学 1
- 37 国際経済学 2

自由選択科目D-2

- 01 教職入門
- 02 教育の思想と原理
- 03 教育と社会・制度
- 04 特別活動指導法
- 05 生徒・進路指導論
- 06 中・高等学校教育実習観察
- 07 介護等体験

**【第3ステップ（5・6セメ） 中等社会系教員としての実践的知識・態度・技能】**

専門科目C-3

- 01 社会系（公民）カリキュラムデザイン論
- 02 社会系（地理歴史）教科指導法
- 03 社会系（地理歴史）教育方法・評価演習
- 04 社会系（公民）教育プランニング論
- 05 地理教育プランニング実習
- 06 歴史教育プランニング実習
- 07 公民教育プランニング実習
- 08 社会認識教育研究法
- 09 自然地理学研究
- 10 人文地理学研究
- 11 地域研究法 I
- 12 地域研究法 II
- 13 人文地理学実習
- 14 地理情報システム学
- 15 地理情報システム実習
- 16 日本近代化論研究
- 17 文献資料解析演習 I
- 18 文献資料解析演習 III
- 19 中国社会史研究
- 20 西洋史研究
- 21 文献資料解析演習 IV
- 22 応用倫理学研究

12.02.28  
平成24年度入学生用

- 23 現代倫理学演習
- 24 対人心理学
- 25 法学研究
- 26 法比較研究
- 27 国際政治学
- 28 国際政治経済学
- 29 経済学各論Ⅲ

自由選択科目D-3

- 01 児童・青年期発達論
- 02 教育課程論
- 03 道徳教育指導法
- 04 教育方法・技術論
- 05 教育相談
- 08 教育実習
- 09 そのほか、各プログラムなどの開設科目

**【第4ステップ（7・8セメ） 中等社会系教員としての総合的知識・態度・技能】**

自由選択科目D-4

- 01 教育実習
- 02 教職実践演習

卒業研究 E

- 01 社会認識教育研究演習
- 02 地理内容研究演習
- 03 日本史内容研究演習
- 04 世界史内容研究演習
- 05 倫理内容研究演習
- 06 経済内容研究演習
- 07 法内容研究演習
- 08 卒業論文

## 教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

### 第二類 社会系コース（中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)												
						1年次		2年次		3年次		4年次						
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○											
		平和科目	2		2	選択必修	○	○										
		パッケージ別科目	6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○										
		総合科目	2		2	選択必修			○	○								
	共通科目	外国語科目	英語 (注2)	(0)	コミュニケーション基礎 I	1	自由選択	○										
					コミュニケーション基礎 II	1			○									
			英語 (注3)	4	コミュニケーション I A	1	選択必修	○										
					コミュニケーション I B	1		○										
					コミュニケーション II A	1			○									
					コミュニケーション II B	1			○									
		上記4科目から2科目以上																
		英語 (注2)	2	コミュニケーション III A	1	選択必修				○	○							
				コミュニケーション III B	1													
				コミュニケーション III C	1													
		上記3科目から2科目																
		初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択)	4	ベーシック外国語 I から2科目	1	選択必修	○											
ベーシック外国語 II から2科目	1				○													
情報科目	2	(注4)	2	選択必修	○													
領域科目	(6)	すべての領域から(注5)	1又は2	選択必修	○	○	○	○										
健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○												
基盤科目	(0)		1～3	自由選択	○	○	○	○										
計	32																	

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーション I A」及び「コミュニケーション I B」が、2セメスターは「コミュニケーション II A」及び「コミュニケーション II B」が指定されている。

注4：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5：・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

・修得したコミュニケーション基礎及び基盤科目の単位を算入することができる。ただし、基盤科目にあつては2単位を限度とする。

## 学部履修基準

### 第 二 類 (科学文化教育系)

#### ○ 社会系コース (中等教育科学 (社会・地理歴史・公民) プログラム)

科目区分等			要修得単位数	開設学部	
教養教育	教養コア科目	教 養 ゼ ミ	2	32 総合科学部ほか	
		平 和 科 目	2		
		パ ッ ケ ー ジ 別 科 目	6		
		総 合 科 目	2		
	共通科目	外国語科目	英 語		6
			初修外国語		4
		情 報 科 目	2		
		領 域 科 目	(6)		
		健 康 ス ポ ー ツ 科 目	2		
	基 盤 科 目	(0)			
専門教育	専 門 基 礎 科 目		16	96 教育学部ほか	
	専 門 科 目		40		
	専 門 選 択 科 目		32		
	自 由 選 択 科 目				
	卒 業 研 究		8		
合 計			128		

## 専門教育科目履修基準

### 第二類 社会系コース（中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラム）

履修内容			要修得単位数	開設
専門基礎科目・専門科目	科学文化教育論		2	第二類
	社会認識教育学		6	社会系コースほか
	社会認識内容学	I 地理認識内容学	2	
		II 歴史認識内容学	4	
		III 市民性内容学	2	
		IV 社会科学認識内容学	2	
選択科目		38		
専門選択科目			32	教育学部ほか
自由選択科目				
卒業研究			8	社会系コース

#### <履修上の注意>

- 『専門基礎科目・専門科目』欄の「社会認識教育学」6単位は、「社会認識教育学概論」（必修）2単位と「社会認識教育学」の中から4単位を修得すること。
- 『専門基礎科目・専門科目』欄の「社会認識内容学」は、開設授業科目表に示すI～IVの科目の中から、それぞれ指定された単位を修得すること。
- 『専門基礎科目・専門科目』は、専門基礎科目16単位、専門科目40単位以上修得すること。
- 『自由選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、32単位まで認める。
- 教職実践演習（中・高）（8 Semester）を履修するためには、原則として7 Semester 終了時点で主たる免許の教育実習（本実習）の単位を修得していること。

第二類 社会系コース（中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開 単 位 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考		
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
専 門 基 礎 科 目	科学文化教育論	②			2									類共通科目
	社会認識教育学概論	②		2										
	社会認識教育学	社会科教育論	2			2							教科の指導法（社会）	
		地理歴史科教育論	2				2						教科の指導法（社会，地歴）	
		公民科教育論	2				2						教科の指導法（社会，公民）	
	I	地理学概説Ⅰ	2			2							地理学，「人文地理学及び自然地理学」	
		地理学概説Ⅱ	2		2								〃，〃	
	II	日本史概説Ⅰ	2	2									日本史及び外国史，日本史	
		日本史概説Ⅱ	2			2							〃，〃	
		世界史概説Ⅰ	2			2							〃，外国史	
		世界史概説Ⅱ	2				2						〃，〃	
	III	倫理学概説	2				2						〔哲学，倫理学，宗教学〕，〔哲学，倫理学，宗教学，心理学〕	
	IV	法律学概説	2		2								〔法学，政治学〕，〔法学（国際法を含む）〕，〔政治学（国際政治を含む）〕	
		政治学原論	2				2						〃，〃	法学部
		経済学概説	2	2									〔社会学，経済学〕，〔社会学，経済学（国際経済を含む）〕	
	専 門 認 識 教 育 学	社会認識教育史	2				2							
社会系（地理歴史）カリキュラムデザイン論		2						2				教科の指導法（社会，地歴）	隔年開講	
社会系（公民）カリキュラムデザイン論		2				2						教科の指導法（社会，公民）	隔年開講	
社会系（地理歴史）教科指導法		2				2						教科の指導法（社会，地歴）	隔年開講	
社会系（公民）教科指導法		2						2				教科の指導法（社会，公民）	隔年開講	
社会系（地理歴史）教育評価論		2				2						教科の指導法（社会，地歴）		
社会系（地理歴史）教育方法・評価演習		2					2					〃	隔年開講	
社会系（公民）教育方法・評価演習		2							2			教科の指導法（社会，公民）	隔年開講	
社会系（地理歴史）教育プランニング論		2							2			教科の指導法（社会，地歴）	隔年開講	
社会系（公民）教育プランニング論		2					2					教科の指導法（社会，公民）	隔年開講	
地理教育プランニング実習（地歴科）		1								2		教科の指導法（社会，地歴）		
歴史教育プランニング実習（地歴科）		1									2	〃		
公民教育プランニング実習（公民科）		1									2	教科の指導法（社会，公民）		
社会認識教育研究法	2									2				

○印は必修

区分	授業科目	開 単 位 数 設	学 期 別 週 授 業 時 数								免 許 法 該 当 科 目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 科 目	I	自然地理学研究	2					2				地理学, 「人文地理学及び自然地理学」	
	人文地理学研究	2					2				〃, 〃		
	自然地理学実習	1				2					〃, 〃		
	世界地誌	2				2					〃, 地誌		
	地域研究法Ⅰ	2						2			〃, 〃		
	地域研究法Ⅱ	2						2					
	人文地理学実習	1					2				地理学, 「人文地理学及び自然地理学」		
	日本環境地誌	2				2					〃, 地誌	総合科学部	
	ヨーロッパ環境地誌	2			2						〃, 地誌	総合科学部	
	地理情報システム学	2					2				〃, 地誌, 「人文地理学及び自然地理学」	文学部	
	地理情報システム学実習	1						2			〃, 〃, 〃	文学部	
	II	戦争と平和に関する史的研究	2		2							日本史及び外国史, 日本史	
	日本社会史研究	2				2					〃, 〃		
	日本文化史研究	2				2					〃, 〃		
	日本近代化論研究	2					2				〃, 〃		
	日本中世研究A	2			2						〃, 〃	文学部	
	日本近世研究A	2			2						〃, 〃	文学部	
	考古学概説	2			2						〃, 〃	文学部	
	社寺建築学研究	2			2						〃, 〃	文学部	
	文字資料解析学A	2			2						〃, 〃	文学部	
	文献資料解析演習Ⅰ	2					2				〃, 〃		
	文献資料解析演習Ⅱ	2						2			〃, 〃		
	文献資料解析演習Ⅲ	2						2			〃, 〃		
	中国史研究	2				2					〃, 外国史		
	中国社会史研究	2					2				〃, 〃		
	西洋史研究	2					2				〃, 〃		
	文献資料解析演習Ⅳ	2						2			〃, 〃		
文献資料解析演習Ⅴ	2						2			〃, 〃			
アジア海域システム研究A(東洋史)	2			2						〃, 〃	文学部		
東アジア地域システム研究A	2			2						〃, 〃	文学部		
異文化交流史研究(西洋史)	2			2						〃, 〃	文学部		

○印は必修

区分	授業科目	開 単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
II	ヨーロッパ社会経済史研究	2				2						日本史及び外国史, 外国史	文学部
	ヨーロッパ海域システム研究	2				2						〃, 〃	文学部
III	哲学概論Ⅰ	2			2							〔哲学, 倫理学, 宗教学〕, 〔哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学〕	文学部
	哲学概論Ⅱ	2			2							〃, 〃	文学部
	現代倫理研究	2			2							〃, 〃	
	応用倫理学研究	2					2					〃, 〃	
	現代倫理学演習	2						2				〃, 〃	
	仏教学概説	2				2						〃, 〃	文学部
	対人心理学	2					2					〔哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学〕	第五類
IV	国際法 1	2			2							〔法学, 政治学〕, 〔法学(国際法を含む)〕, 〔政治学(国際政治を含む)〕	法学部
	国際法 2	2				2						〃, 〃	法学部
	現代司法論	2			2							〃, 〃	
	法学研究	2					2					〃, 〃	
	法比較研究	2						2				〃, 〃	
	国際政治学	2						2				〃, 〃	法学部
	国際政治経済学	2						2				〃, 〃	法学部
	社会学 1	2				2						〔社会学, 経済学〕, 〔社会学, 経済学(国際経済を含む)〕	法学部
	社会学 2	2				2						〃, 〃	法学部
	社会調査論	2			2							〃, 〃	法学部
	経済学各論Ⅰ	2			2							〃, 〃	
	経済学各論Ⅱ	2				2						〃, 〃	
	経済学各論Ⅲ	2					2					〃, 〃	
	国際経済学 1	2			2							〃, 〃	経済学部
国際経済学 2	2				2						〃, 〃	経済学部	

専  
門  
科  
目

○印は必修

区分	授業科目	開 単 位 設 数	学 期 別 週 授 業 時 数								免許法該当科目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 選 択 科 目	教職入門	2			2							教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、 進路選択に資する各種の機会の提供等	
	教育の思想と原理	2			2							教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
	児童・青年期発達論	2					2					幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	教育と社会・制度	2				2						教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	
	教育課程論	2					2					教育課程の意義及び編成の方法	
	道徳教育指導法	2					2					道徳の指導法	
	特別活動指導法	2				2						特別活動の指導法	
	教育方法・技術論	2						2				教育の方法及び技術	
	生徒・進路指導論	2				2						生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法	
	教育相談	2						2				教育相談	
	中・高等学校教育実習入門	2	2									教育実習（事前指導）	
	中・高等学校教育実習観察	1				集中						教育実習（事前指導）	
	教育実習指導B	1					集中					教育実習（事前指導）	
	中・高等学校教育実習 I	4						集中				教育実習（中学校本免用）	
	中・高等学校教育実習 II	2							集中			教育実習（高等学校本免用）	
介護等体験事前指導	1			1							教科又は教職に関する科目		
教職実践演習	2								2		教職実践演習		
自 由 選 択 科 目	本コース，本学部他コース，特 別科目及び他学部等が開設する 専門教育科目（副専攻プログラ ム及び特定プログラムを含む。）												
卒 業 研 究	社会認識教育研究演習	2							2				
	地理内容研究演習	2							2				
	日本史内容研究演習	2							2				
	世界史内容研究演習	2							2				
	倫理内容研究演習	2							2				
	経済内容研究演習	2							2				
	法内容研究演習	2							2				
	卒業論文	⑥											

(注) 他学部開設科目については、開講年度によりセメスターが変更する場合がありますので、各年度初めに各自で該  
当学部の時間割表をよく見て確認すること。

到達目標評価項目と評価基準の表

○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 中等社会系教育の理論と方法に関する基本的知識が身に付いている	知識を十分もっており、それらの理解を批判的に総合化することができる	知識をもっており、それらの理解を総合化することができる	知識が身に付いている	社会認識教育学概論(2) 社会科教育論(3) 社会系(地理歴史)教育評価論(3) 地理歴史科教育論(4) 公民科教育論(4) 社会認識教育史(4) 社会認識教育研究法(6)
2) 中等社会系地理領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている	知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる	知識をもっており、それらの理解を総合化することができる	知識が身に付いている	地理学概説Ⅱ(2) 地理学概説Ⅰ(3) 世界地誌(4) 自然地理学研究(5) 人文地理学研究(5)
3) 中等社会系歴史領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている	知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる	知識をもっており、それらの理解を総合化することができる	知識が身に付いている	日本史概説Ⅰ(1) 戦争と平和に関する史的研究(2) 日本史概説Ⅱ(3) 世界概説Ⅰ(3) 世界史概説Ⅱ(4) 日本社会史研究(4) 日本文化史研究(4) 中国史研究(4) 中国社会史研究(5)
4) 中等社会系公民領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている	知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる	知識をもっており、それらの理解を総合化することができる	知識が身に付いている	経済学概説(1) 法律学概説(2) 現代倫理研究(3) 現代司法論(3) 経済学各論Ⅰ(3) 倫理学概説(4) 経済学各論Ⅱ(4) 応用倫理学研究(5) 法学研究(5) 経済学各論Ⅲ(5) 現代倫理学演習(6) 法比較研究(6)

## ○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セマスタ
1) 中等社会系教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる	批判的に分析・検討することができる	十分に分析・検討することができる	分析・検討することができる	社会認識教育学概論(2) 社会科教育論(3) 社会系(地理歴史)カリキュラムデザイン論(3) 社会系(公民)教科指導法(3) 地理歴史科教育論(4) 公民科教育論(4) 社会系(地理歴史)教育プランニング論(4) 社会系(公民)カリキュラムデザイン論(5) 社会系(地理歴史)教科指導法(5) 社会系(公民)教育プランニング論(6)
2) 中等社会系教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる	文献や資料にもとづいて適切に調査し、批判的に吟味・検討することができる	文献や資料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる	文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる	社会系(地理歴史)教育評価論(3) 社会認識教育史(4) 社会認識教育研究法(6)
3) 社会系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる	内容領域ごとに適切にまとめ、総合的に読解することができる	内容領域ごとに適切にまとめ、読解することができる	内容領域ごとにまとめ読解することができる	日本史概説Ⅰ(1) 戦争と平和に関する史的研究(2) 法律学概説(2) 日本史概説Ⅱ(3) 自然地理学実習(4) 人文地理学実習(5) 文献資料解析演習Ⅰ(5) 社会認識教育研究法(6) 地域研究法Ⅰ(6) 地域研究法Ⅱ(6)
4) 社会系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる	批判的に分析・検討することができる	十分に分析・検討することができる	分析・検討することができる	現代倫理研究(3) 現代司法論(3) 倫理学概説(4) 応用倫理学研究(5) 法学研究(5) 現代倫理学演習(6) 法比較研究(6)
5) 社会系内容領域に関連した研究課題を文献や歴史資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる	文献や歴史資料にもとづいて適切に調査し、批判的に吟味・検討することができる	文献や歴史資料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる	文献や歴史資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる	文献資料解析演習Ⅱ(3) 日本近代化論研究(5) 文献資料解析演習Ⅰ(5) 文献資料解析演習Ⅲ(6)

## ○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 中等社会系カリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる	カリキュラムを批判的に分析し、適切にデザインし、立案することができる	カリキュラムを十分に分析し、デザインし、立案することができる	カリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる	社会系（地理歴史）カリキュラムデザイン論（3） 社会系（公民）カリキュラムデザイン論（5）
2) 中等社会系教育内容や教材を分析し、開発することができる	内容や教材を批判的に分析し、適切に開発することができる	内容や教材を十分に分析し、開発することができる	内容や教材を分析し、開発することができる	社会系（公民）教科指導法（3） 日本文化史研究（4） 社会系（公民）教育方法・評価演習（4） 社会系（地理歴史）教科指導法（5） 社会系（地理歴史）教育方法・評価演習（6）
3) 中等社会系授業を分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる	授業を批判的に分析、構想・立案し、根拠を持った学習指導案として作成することができる	授業を十分に分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる	授業を分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる	社会系（公民）教科指導法（3） 社会系（地理歴史）教育評価論（3） 社会系（公民）教育方法・評価演習（4） 社会系（地理歴史）教育プランニング論（4） 社会系（地理歴史）教科指導法（5） 社会系（地理歴史）教育方法・評価演習（6） 社会系（公民）教育プランニング論（6） 地理教育プランニング実習（6） 歴史教育プランニング実習（6） 公民教育プランニング実習（6）
4) 中等教育および社会系教育に関する研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる	研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を総合的に批判的に分析・検討し、その意義を的確に示すことができる	研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる	研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる	地理教育プランニング実習（6） 歴史教育プランニング実習（6） 公民教育プランニング実習（6） 社会認識教育演習（7） 地理内容研究演習（7） 日本史内容研究演習（7） 世界史内容研究演習（7） 倫理内容研究演習（7） 法内容研究演習（7） 経済内容研究演習（7）

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 個人、あるいは、グループにおいて、研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる (研究力)	研究・活動を十分に企画・立案し、実行し、その成果を的確に伝えることができる	研究・活動を十分に企画・立案し、実行し、その成果を伝えることができる	研究・活動を企画・立案し、実行し、その成果を伝えることができる	日本近代化論研究 (5) 社会認識教育研究法 (6) 社会認識教育演習 (7) 地理内容研究演習 (7) 日本史内容研究演習 (7) 世界史内容研究演習 (7) 倫理内容研究演習 (7) 法内容研究演習 (7) 経済内容研究演習 (7)
2) 調査や教育実施、その発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領よく整理し、プレゼンテーションすることができる (コミュニケーション・プレゼンテーション力)	相互のコミュニケーションを十分に確保し、成果や主張、発表内容を要領よく整理し、的確にプレゼンテーションすることができる	相互のコミュニケーションを十分に確保し、成果や主張、発表内容を要領よく整理し、プレゼンテーションすることができる	相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領よく整理し、プレゼンテーションすることができる	地理教育プランニング実習 (6) 歴史教育プランニング実習 (6) 公民教育プランニング実習 (6) 地域研究法Ⅰ (6) 地域研究法Ⅱ (6) 文献資料解析演習Ⅲ (6) 社会認識教育演習 (7) 地理内容研究演習 (7) 日本史内容研究演習 (7) 世界史内容研究演習 (7) 倫理内容研究演習 (7) 法内容研究演習 (7) 経済内容研究演習 (7) 卒業論文 (8)
3) コンピュータなど I T を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる (I T 活用力)	I T を十分に用いて、的確に基礎的な統計処理や数値表現ができる	I T を十分に用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる	I T を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる	自然地理学実習 (4) 人文地理学実習 (4) 社会認識教育演習 (7) 地理内容研究演習 (7) 日本史内容研究演習 (7) 世界史内容研究演習 (7) 倫理内容研究演習 (7) 法内容研究演習 (7) 経済内容研究演習 (7) 卒業論文 (8)
4) 多くの人々と協同して中等教育課題に取り組み、グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている (社会性・協同性)	自らの力を十分に発揮、よりよいものを適切に作り出したり改善したりする態度をもっている	自らの力を十分に発揮、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている	自らの力を発揮、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている	社会認識教育演習 (7) 地理内容研究演習 (7) 日本史内容研究演習 (7) 世界史内容研究演習 (7) 倫理内容研究演習 (7) 法内容研究演習 (7) 経済内容研究演習 (7) 卒業論文 (8)





区分	授業科目	開設 単位	学期別週授業時数								到達目標の評価項目																				備考						
			セメスター								A(知識理解)							B(知的能力・技能)							C(実践的能力・技能)							D(総合的能力・技能)					
			1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	
	社会学2	2			2									/	/	/							/	/					/	/					/	/	法学部
	社会調査論	2		2										/	/	/							/	/					/	/					/	/	法学部
	経済学各論Ⅰ	2		2									○	/	/	/							/	/					/	/					/	/	森田
	経済学各論Ⅱ	2			2								○	/	/	/							/	/					/	/					/	/	森田
	経済学各論Ⅲ	2				2							○	/	/	/							/	/					/	/					/	/	森田
	国際経済学1	2		2										/	/	/							/	/					/	/					/	/	経済学部
	国際経済学2	2			2									/	/	/							/	/					/	/					/	/	経済学部
	専門選択科目													/	/	/							/	/					/	/					/	/	
	自由選択科目													/	/	/							/	/					/	/					/	/	
卒業研究	社会認識教育卒業研究演習	2						2						/	/	/							/	/			○	/	/	○	○	○	○	/	/		
	地理内容卒業研究演習	2						2						/	/	/							/	/			○	/	/	○	○	○	○	/	/		
	日本史内容卒業研究演習	2						2						/	/	/							/	/			○	/	/	○	○	○	○	/	/		
	世界史内容卒業研究演習	2						2						/	/	/							/	/			○	/	/	○	○	○	○	/	/		
	倫理内容卒業研究演習	2						2						/	/	/							/	/			○	/	/	○	○	○	○	/	/		
	法内容卒業研究演習	2						2						/	/	/							/	/			○	/	/	○	○	○	○	/	/		
	経済内容卒業研究演習	2						2						/	/	/							/	/			○	/	/	○	○	○	○	/	/		
	卒業論文	6						6						/	/	/							/	/					/	/	○	○	○		/	/	

担 当 教 員

担当教員名	担当授業科目等	備考
三宅 紹 宣	担当授業科目：日本史概説Ⅱ 日本近代化論研究 日本文化史研究 文献資料解析演習Ⅲ 日本史研究内容演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部C棟512 E-mail アドレス： <a href="mailto:tumiyake@hiroshima-u.ac.jp">tumiyake@hiroshima-u.ac.jp</a>	
小原 友 行	担当授業科目：科学文化教育論 社会科教育論 公民科教育論 社会系（公民）カリキュラムデザ イン論 社会系（地理歴史）教育プランニ ング論 社会認識教育研究演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部C棟520 E-mail アドレス： <a href="mailto:tkobara@hiroshima-u.ac.jp">tkobara@hiroshima-u.ac.jp</a>	

12.02.28  
平成 24 年度生用

池 野 範 男	担当授業科目：社会認識教育学概論 地理歴史科教育論 社会系（公民）教科指導法 歴史教育プランニング実習 社会認識教育研究法 社会認識教育研究演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟403 E-mail アドレス： <a href="mailto:nikeno@hiroshima-u.ac.jp">nikeno@hiroshima-u.ac.jp</a>	
下 向 井 龍 彦	担当授業科目：戦争と平和に関する史的研究 日本史概説 I 日本社会史研究 文献資料解析演習 I 文献資料解析演習 II 日本史研究内容演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部C棟511 E-mail アドレス： <a href="mailto:shimoken@hiroshima-u.ac.jp">shimoken@hiroshima-u.ac.jp</a>	
棚 橋 健 治	担当授業科目：科学文化教育論 社会認識教育学概論 公民科教育論 社会系（地理歴史）教育評価論 公民教育プランニング実習 社会認識教育研究演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟402 E-mail アドレス： <a href="mailto:tanahasi@hiroshima-u.ac.jp">tanahasi@hiroshima-u.ac.jp</a>	

12.02.28  
平成 24 年度生用

<p>由 井 義 通</p>	<p>担当授業科目：地理学概説 I            人文地理学研究            世界地誌（前杵と分担）            地域研究法 I            人文地理学実習            地理認識内容研究演習            卒業論文            研究室の場所：教育学部 A 棟 4 0 8            E-mail アドレス：<a href="mailto:yyui@hiroshima-u.ac.jp">yyui@hiroshima-u.ac.jp</a></p>	
<p>前 杵 英 明</p>	<p>担当授業科目：地理学概説 II            自然地理学研究            世界地誌（由井と分担）            地域研究法 II            自然地理学実習            地理内容研究演習            卒業論文            研究室の場所：教育学部 C 棟 5 1 5            E-mail アドレス：<a href="mailto:maemoku@hiroshima-u.ac.jp">maemoku@hiroshima-u.ac.jp</a></p>	
<p>畠 中 和 生</p>	<p>担当授業科目：現代倫理研究            倫理学概説            応用倫理学研究            現代倫理学演習            倫理内容研究演習            卒業論文            研究室の場所：教育学部 C 棟 5 1 5            E-mail アドレス：<a href="mailto:khatake@hiroshima-u.ac.jp">khatake@hiroshima-u.ac.jp</a></p>	
<p>草 原 和 博</p>	<p>担当授業科目：社会科教育論            地理歴史科教育論            社会系（地理歴史）カリキュラム            デザイン論            社会系（地理歴史）教科指導法            地理教育プランニング実習</p>	

12.02.28  
平成 24 年度生用

	<p>社会認識教育研究演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 4 0 4 E-mail アドレス：<a href="mailto:kusahara@hiroshima-u.ac.jp">kusahara@hiroshima-u.ac.jp</a></p>	
森 田 英 樹	<p>担当授業科目：経済学概説 経済学各論 I 経済学各論 II 経済学各論 III 経済内容研究演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部 C 棟 5 1 8 E-mail アドレス：<a href="mailto:himorita@hiroshima-u.ac.jp">himorita@hiroshima-u.ac.jp</a></p>	
畑 浩 人	<p>担当授業科目：法律学概説 現代司法論 法学研究 法比較研究 法内容研究演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 4 0 6 E-mail アドレス：<a href="mailto:hato@hiroshima-u.ac.jp">hato@hiroshima-u.ac.jp</a></p>	
白 須 淨 眞	<p>担当授業科目：世界史概説 I 中国史研究 文献資料解析演習 IV 世界史内容研究演習 卒業論文 研究室の場所：教育学部 K 棟 1 1 0 E-mail アドレス：<a href="mailto:turfan@hiroshima-u.ac.jp">turfan@hiroshima-u.ac.jp</a></p>	
木 村 博 一	<p>担当授業科目：社会認識教育史 研究室の場所：教育学部 C 棟 5 1 9 E-mail アドレス：<a href="mailto:hkimura@hiroshima-u.ac.jp">hkimura@hiroshima-u.ac.jp</a></p>	
某	<p>担当授業科目：社会系（地理歴史）教育方法・評価演習 研究室の場所： E-mail アドレス：</p>	

12.02.28  
平成 24 年度生用

某	担当授業科目：社会系（公民）教育方法・評価演習 研究室の場所： E-mail アドレス：	
某	担当授業科目：社会系（公民）教育プランニング論 研究室の場所： E-mail アドレス：	
某	担当授業科目：世界史概説Ⅱ 研究室の場所： E-mail アドレス：	
某	担当授業科目： 研究室の場所： E-mail アドレス：	